

13:25 そこを人々が通りかかり、道に放り出されている死体と、その死体のそばに立っている獅子を見た。彼らは、あの年老いた預言者の住んでいる町に行き、このことを話した。

13:26 その人を途中から連れ帰ったあの預言者は、それを聞いて言った。「それは、【主】のことばに背いた神の人だ。【主】が彼に告げたことばどおりに、【主】が彼を獅子に渡され、獅子が彼を裂いて殺したのだ。」

13:27 そして、息子たちに「ろばに鞍を置いてくれ」と言ったので、彼らは鞍を置いた。

13:28 彼は出かけて行って、道に放り出されている死体と、その死体のそばに立っているろばと獅子を見つけた。獅子はその死体を食わず、ろばを引き裂いてもいなかった。

13:29 そこで、年老いた預言者は神の人の遺体を取り上げ、それをろばに乗せて自分の町に持ち帰り、悼み悲しんで葬った。

13:30 彼が遺体を自分の墓に納めると、皆はその人のために、「ああ、わが兄弟」と言って悼み悲しんだ。

13:31 彼はその人を葬った後、息子たちに言った。「私が死んだら、あの神の人を葬った墓に私を葬り、あの人の骨のそばに私の骨を納めてくれ。」

13:32 あの人が【主】のことばにしたがって、ベテルにある祭壇とサマリアの町々にあるすべての高き所の宮に向かって叫んだことばは、必ず成就するからだ。」

13:33 このことがあった後も、ヤロブアムは悪い道から立ち返ることをせず、引き続き一

般の民の中から高き所の祭司たちを任命し、だれでも志願する者を任職して高き所の祭司にした。

13:34 このことは、ヤロブアムの家の罪となり、ついには大地の面から根絶やしにされることとなった。

「年寄りの預言者」は自分に原因があることから、「神の人」の死に対して同情します。また「あの人が...、叫んだことばは必ず成就する」と、今は確信をもって語っています。これは主のさばきを目の当たりにしたからこそです。

「主はこの年老いた預言者」をもさばくべきではないかと考えてしまいましたが、主のさばきには目的があります。主の預言の厳かさ、特にヤロブアムによってなされた北王国の反逆を告発するために、預言者が遣わされたのです。彼は自分の使命の尊さと、与えられた権威とを、もっと大切にすべきでした。

しかし最後に「年老いた預言者」は「(みこころは)必ず成就する」と、北王国の滅びを預言しました。またそれでもヤロブアムは「立ち返ることをせず」と、彼の罪はますます明らかになりました。この「神の人は」さばかれることによって、その使命を果たしたということにもなります。また、今は心が変わった「年寄りの預言者」によって同情と信頼が表されました。彼の名誉は保たれたといえるでしょう。

初めは忠実でありながら、後に主に背くという点では、ダビデやソロモンと同じです。彼が永遠にさばかれるとは言い切れないでしょう。主のあわれみがそこにあります。

最後まで主に忠実でありましょう。私たちに与えられている使命の尊さをしっかりと覚えましょう。失敗したなら主のあわれみを求めましょう。十字架に赦すと、新しい出発もあるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

